国立国会図書館吉田家文書修復

政府機関

ユーザー

いいね！**223件**

情報

東日本大震災で被災した岩手県指定有形文化財「吉田家文書」修復作業の進捗をお知らせします。

http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/data_preservation...

写真

ノート

吉田家文書とは
2012年11月13日

国立国会図書館吉田家文書修復
9月23日

ごきげんよう、さようなら、吉田家文書！
約2年間にわたり一緒に過ごした吉田家文書が無事岩手に戻りました。しばらくは岩手県立博物館で保管され、将来的には陸前高田に戻るそうです。
盛岡で関係者とともに吉田家文書を待ち受けていたのは大勢の報道陣。トラックが到着するとテレビカメラが駆け寄り、帙から取り出された定留にはすごい勢いでシャッターが切られていました。岩手では夕方のニュースで流れ、たくさんの新聞に掲載されました。
先日、吉田家ご当主が来館されたときに伺ったお話では、ご当主の小さいころ、吉田家文書は「門外不出の書」として家から出たことがなかったそうです。それが、いろいろな経緯や大震災を経て東京にまでやってきたなんてアメイジングです。
吉田家文書はいろいろな方の思いやご協力で救出され、ここまで至りました。我々の作業はほんの一部でありましたが、微力ながら関わらせていただいたことに深く感謝しております。またご指導、ご協力いただきました皆様にも御礼申し上げます。ありがとうございました。
＊＊＊
このFacebookもこれで終了します。当初は2週間に1回更新するのです！と意気込んでいましたが、作業が始まるとなかなかままならず、取り立て屋 に催促されてようやく書いておりました。いろいろな方からいただいた「読んでいます」というお言葉は、修復作業の励みとなっていました。ありがとうございました。これまでの記事は国立国会図書館ホームページ内の「資料の保存」ページでお読みいただけるようにしたいと考えております。

いいね！ · コメントする シェア3件

戸沢一徳さん、田村 卓朗さん、佐藤 博さん、他91人が「いいね！」と言っています。

陸前高田市立博物館 本当にありがとうございました。
9月23日 22:24 · 1

新田 香 お疲れ様でございました。素晴らしいお仕事、勇気をもらいました。
9月23日 22:46

青柳 周一 シェアさせていただきました！
9月23日 23:41

西潟 澪 お疲れ様でした。無事に岩手に戻れて良かったです(^o^ゞ
9月24日 1:33

中島 英司 吉田家ご当主って岩手でしたっけ？？
9月24日 1:45

Keiko Mikuma 読むのを楽しみにしていました。吉田家文書は、大切な地域の宝です。本当によかったです。
9月24日 5:11

国立国会図書館吉田家文書修復
9月16日

穏やかな日々

先日、吉田家のご当主と岩手県文化財保護審議会の先生が、修復作業後の文書をご覧くださいました。当日はお二人のほか、レスキュー作業からずっと関わっ てこられた宮敏子先生も来館され、文書が救出されてから修復に至るまでの概要と修復作業の方針をご説明くださいました（写真1番目）。
吉田家文書はいま、とても穏やかに岩手に帰る日を待っています（写真2番目）。保管されているのは当館の書庫なのですが、一年を通して温湿度がほぼ一定に保たれています。
返却の日まであと数日となりました。作業を始めたばかりの頃、なかなか計画どおりに進まなくてどうなることかと不安だったことを思うと、感慨深いです。

いいね！ · コメントする

大友 健右さん、Noriko Takahashiさん、杉山 晴香さん、他33人が「いいね！」と言っています。

国立国会図書館吉田家文書修復
9月1日

迷子

吉田家文書の中には、紙が腐ってしまって、複数のページが貼り付いてはがせなくなっていたり、ボロボロになって部分的に抜け落ちてしまった部分がありました。抜け落ちた破片は、以前ご紹介したように被災前の画像を見て極力もとの位置に戻したのですが（2014年4月14日「パズル」https://www.facebook.com/yoshidakeshufuku/posts/756837737690318）、残念ながら、どうしても場所がわからなかったものや、正しい位置がどうか確信のもてないものがありました。そのような破片は写真のように小さな袋に入れて、どの文書から出たかわかるようにして、別にとっておきます。はがせなかった部分は幸いに文字のない箇所だったので、同じくまとめて袋に入れてお返しします。

いいね！ · コメントする

大友 健右さん、相澤孝明さん、こわ ちゃんさん、他29人が「いいね！」と言っています。

国立国会図書館吉田家文書修復
8月18日

帙に入りました

待ちに待った帙が完成し、納品されました。題箋（タイトルの書かれた紙）がありませんが、岩手で書いていただいて貼る予定です。
吉田家文書は一冊の中に寸法のちがうものが一緒に綴じられていたり、綴じ部分と開いている部分で厚みが異なるものがあり、どこの寸法に合わせて帙をつくるかがとても難しいのですが、完成した帙はすべてぴったりでした。
帙に入ることで、文書の形が整った状態で保護され、持ち運びがしやすくなります。帙は天地（上と下）があいているので、棚に並べたとき、写真のように、地に書かれた年号が見えるようになっています。代々、大肝入が大切に受け継いでこられたものなので、お蔵の中でこのような感じで保存されていたのかなあと 勝手に想像しています。
いよいよ岩手にお返しする日程の調整に入ってきました。養女をお嫁に出すような、うれしいようなさみしいような気持ちで眺めています。

いいね！ · コメントする 36

国立国会図書館吉田家文書修復
8月4日

ケンピン

検品とは、仕上がり状態や綴じ間違いがないか等々のチェックです。これまで、3回に分けて岩手県立博物館が定留の検品に来てくださいました。そして今回は、県立博物館に加えて岩手県教育委員会の方も来館され、定留以外の文書を見ていただきました。
吉田家文書は、被災よりはるか以前に、マイクロフィルムに撮影されています。検品作業では、このマイクロフィルムをデジタル化した画像と修復後の資料を１丁１丁見比べ、おかしなところがないかチェックしていただきます。これまで大きなご指摘はなかったのですが、ここにきて気が緩んだのか 焦っていたのか、綴じ間違いが見つかり、すぐに直しました。
この後、9月に最後の総まとめ検品の予定があります。

いいね！ · コメントする · シェア 26

国立国会図書館吉田家文書修復
6月3日

帙の採寸

修復を終えた吉田家文書は1冊ずつ帙（ちつ）に入って岩手に戻ることになっています。帙とは、和本を包み込んで保護するいれものです。
先日、帙を作ってくださる業者さんが、文書の採寸にやってきました。今回お願いする帙は無双帙（むそうちつ）といって、天と地（上下）があいているタ イプのものです。帙と中身の大きさがぴったり合っていれば、天地があいていても中身は落ちません。一点一点念入りに縦横の長さと厚さを計測していました。
帙は厚紙に布を貼り、自然乾燥させて作られます。これから梅雨に入るのでお天気次第ですが、7月初めには納品される予定です。

いいね！ · コメントする · シェア 54

国立国会図書館吉田家文書修復
5月19日

定留完了！

「もうすぐ終わります」と言いながらなかなか終わらず、完了詐欺疑惑も持ち上がっておりましたが、ようやく定留がすべて綴じ終わりました。最後はみんな で綴じ上がりを見守り、綴じひもを結び終わったときには、全員感動の涙……とはいかないまでも拍手で終わりました。
まだ最終調整等ありますが、定留が終わって一安心です。このページはもう少し続きますのでよろしくお願いします。

いいね！ · コメントする · シェア 52

国立国会図書館吉田家文書修復
5月14日

とじます、とじます！

苦戦を強いられていた綴じの作業は、数をこなしていくうちにコツを身につけて作業効率が上がり、それほど体力を消耗しなくなりました。が、簡単なものから 始めたので、こちらの上達に比例して作業の難易度も上がってきました。厚さが15センチ以上のものや、1冊の中でページ寸法がバラバラなものなどです。
厚さ対策として、畳用の針を導入しました。これまで使っていたものより長く太い針で、麻ひもがからまりにくく、折れることもなくなりました。
ページ寸法がバラバラなものは揃えるのが大変です。ただ揃えるだけでは元の穴と合わないこともあり、元の穴の位置を確認してどこで揃えるかを決めていきます。元の穴が漉きばめで埋まっていれば、目打ちで開け直します。
効率が上がっても力仕事であることには変わりなく、綴じの担当者は手にマメができてしまいました。

いいね！ · コメントする · シェア 57

国立国会図書館吉田家文書修復
4月22日

とじます

とうとう全丁の修復を終え、綴じの作業までたどり着きました。
定留の綴じには糸ではなく麻ひもが使われていたので、私たちも麻ひもを使います。このひもを穴に通すのが一苦労です。一つの穴に何度も通さなければならず、中でからまったりしてなかなか通らないので、ペンチで針を引っ張っています。針を上から刺すほうがやりやすいので、太ももに刺してしまわないように注意しながら、思い切り引っ張ります。綴じは吉田家文書の修復作業でいちばん腕力が必要なことではないかと思います。針が折れたり、たまに心も折れたりしますが、綴じ上がった定留を見ると、達成感に包まれます。

いいね！ · コメントする 39

国立国会図書館吉田家文書修復
4月14日

パズル

先日お伝えした「文久3年」の作業はなんとか完了し、綴じの工程を残すのみになりました。ミルフィーユ状態のその後をお知らせいたします。
まず綴じをほどいて慎重に1丁ずつはがし、目の前の丁と被災前の画像を目が充血するくらいひたすら見比べて破片の位置を探します。1丁当たり2時間くらいかかるものもありました（全部で約50丁）。
不織布で補強した丁の上に破片をパズルのように並べ、その上からメチルセルロース（水溶性の接着剤）を塗った不織布で押さえて、漉きばめします。
乾燥後 に不織布を外すと、破片が元の場所に戻った状態で、紙の繊維が薄く乗っています。破片がなくなってしまったり、紙がもろくなってしまって戻らない箇所も多 数ありましたが、ページをめくれるようになりました。

いいね！ · コメントする 31

国立国会図書館吉田家文書修復
3月25日

最後の定留

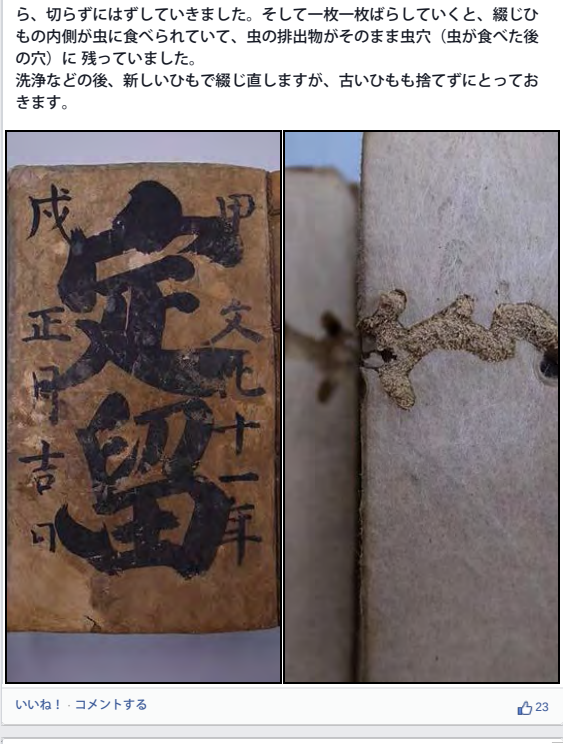
ついに最後の定留の修復に着手しました。昨年の後半から状態がひどいものの修復が続いており、さらにこの更新もままならずにいました。当初の予定から少し遅れて、ようやく最後の一冊までたどり着きました。
大トリを飾るのは、「文久3年」の定留です。状態がよいものから処置してきたので、これは一番傷んでいてさくさくのミルフィーユのようになっています。 紙の劣化（劣化）がひどいのでしょうか。これから、1丁ずつはがして、破片をジグソーパズルのようにきれいに並べ、漉きばめしていく作業が待っています。 なかなか簡単には終わりそうにありません。
定留の後、関連文書が16点ほど残っています。もうひと踏ん張りです。作業の様子は追ってご紹介します。

いいね！ · コメントする · シェア 58

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年11月19日

不死身の「文化11年」

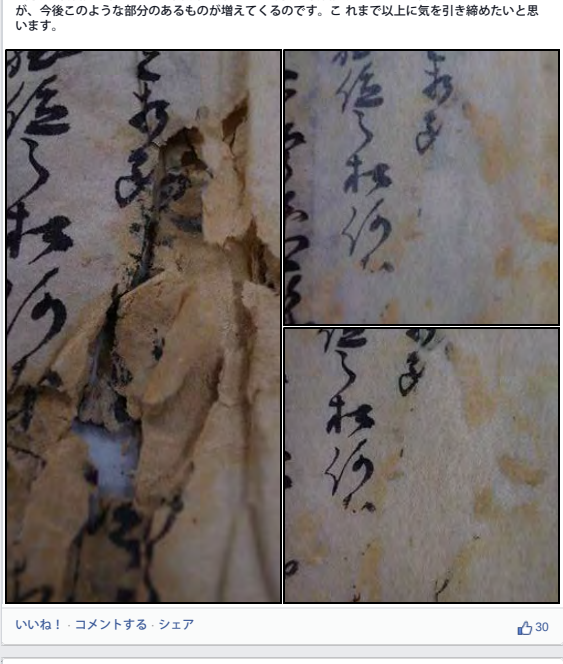
最近は状態がひどいものの作業が続いています。これまでより手間がかかり、つらい毎日で、ついに、これまで秘蔵してきた「文化11年」の綴じひもを解く ことにしました。定留のうち、この「文化11年」だけはこれまで補修された跡がなく、震災後の状態も良好で、「奇跡の書」と勝手に名付けて棚の奥深くにし まってあったのです。
いつもなら綴じひもはハサミで切るのですが、「文化11年」は1814年当時の状態がそのまま残っている可能性が大きいので、糸運びの順番を記録しながら、切らずにはずしていきました。そして一枚一枚ばらしていくと、綴じひもの内側が虫に食べられていて、虫の排出物がそのまま虫穴（虫が食べた後の穴）に 残っていました。
洗浄などの後、新しいひもで綴じ直しますが、古いひもも捨てずにとっておきます。



いいね！ · コメントする 23

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年10月23日

一年！（写真3枚）
早いもので、吉田家文書が当館に搬送されてから一年が経過しました。これまで順調なペースで進んできています。これから難しい部分に取りかかっていきます。■今日の作業で遭遇した難しい部分です（写真1番目）。紙が濡れて固まったまま腐食していて、触るとボロボロと崩れてしまうのです。■このような部分は、最初に不織布をかぶせてとめておきます。とめた状態で洗って慎重にのばし、できるかぎり元の状態に近づけます。そのまま漉きばめで欠損部を紙の繊維で埋め（写真2番目）、乾いてから不織布を外します（写真3番目）。■今回は１冊に20ページほどですが、今後このような部分のあるものが増えてくるのです。こ れまで以上に気を引き締めたいと思います。



いいね！ · コメントする · シェア 30

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年9月16日

SUKIBAME

IFLA（国際図書館連盟）の年次大会が8月17日から23日までシンガポールで開催されました。国立国会図書館の展示ブースでは、東日本大震災アーカ イブ「ひなぎく」と並んで吉田家文書の修復作業を紹介し、鋭意稼働中の漉きばめ機を動画でお見せしました。漉きばめ作業に来場者の注目が集まり、特に津波 で被災した経験を持つチリや東南アジア諸国の方々が強い関心を示されたとのことでした。

National
Diet
Library
Digitize
Conte

いいね！ · コメントする · シェア 28 1

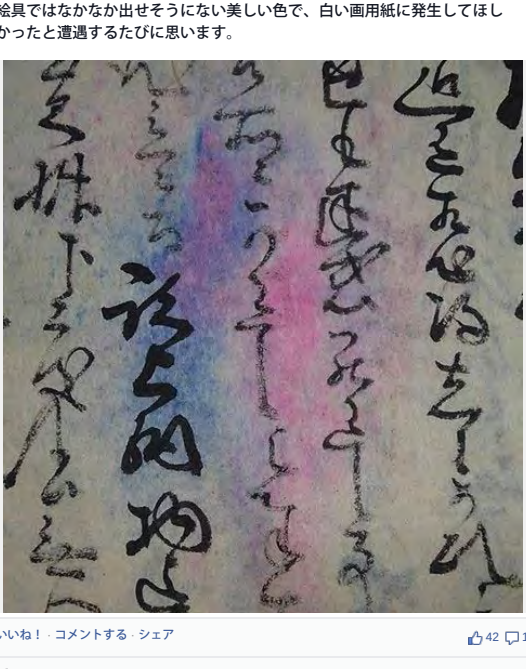
大友 健右さん、こわ ちゃんさん、佐藤 尚子さん、他25人が「いいね！」と言っています。

新田 香 SUKIBAME！日本の技術が世界の共通語になっていくのは素晴らしいです〜！
2013年9月16日 22:49

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年8月18日

カラフルな...

きれいな青やピンクの模様。これは紙に施された装飾ではありません。
前回、文書に発生してしまったカビをご紹介しましたが、出没したのはカビだけではありませんでした。青やピンクで紙を染めてしまった正体は、菌類などの 微生物なのだそうです。今年7月に仙台で開催された文化財保存修復学会の第35回大会で、東京文化財研究所の佐藤嘉則先生ほかが、関連の発表をなさってい ます。微生物による変色もカビと同じで、残念ながら元に戻すことは難しいものです。
絵具ではなかなか出せそうにない美しい色で、白い画用紙に発生してほしかったと遭遇するたびに思います。



いいね！ · コメントする · シェア 42 1

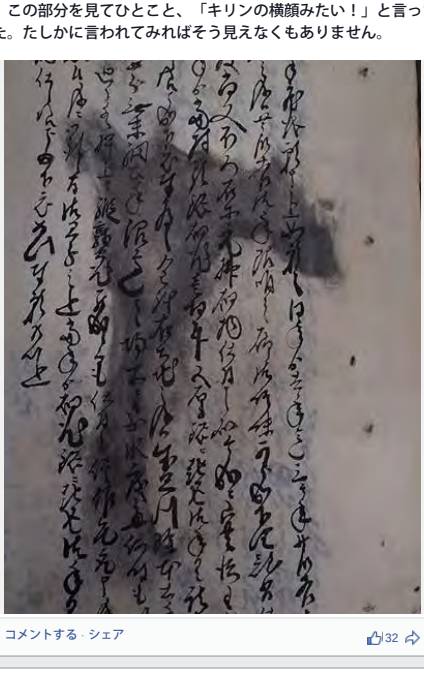
大友 健右さん、小関 尚子さん、こわ ちゃんさん、他39人が「いいね！」と言っています。

吉橋 若実 こういうカビ発生場所は前後の頁にも反映されてしまうのでしょうか？
2013年8月19日 17:38

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年7月25日

キリンの横顔？？

先日修復した「文政四年」の定留は、被災後にカビが生えてしまった部分があります。ほとんどが黒カビです。カビが生えてしまったものは他にもあるのです が、ここまで広範囲のものはなかなかありません。カビによる変色を元に戻すことは難しく、さらに、カビの生えた部分は弱くなっていることが多いので、作業 では注意が必要です。
作業も半年を越え、カビに出会っても「黒い」としか思わなくなってきたのですが、この部分を見てひとこと、「キリンの横顔みたい！」と言った人がいました。たしかに言われてみればそう見えなくもありません。



いいね！ · コメントする · シェア 32 シェア1件

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年7月8日

ブンブンローラー（写真3枚）
タイトルだけ見ても何のことだかという感じですが、これは作戦名です。作業に慣れ、スピードが上がってきたので、さらに勢いをつけるため、「文化」「文政」の「ブン」がつく比較的状態のよい定留をローラー作戦で修復していくというものです。■「文化（1804〜1817）」の定留は一冊の厚みが薄いのです が、「文政（1818〜1829）」の定留はとても分厚い。年表を見ると、どちらの年代も色々な出来事があったようなのですが、記録者が異なるからでしょ うか。それとも、文政年間は大肝入の仕事がたくさんあっ たのでしょうか。なかなか作業が終わらない「文政」の合間に「文化」が入ると、はかどっている実感を得ることができます。■ブンブンローラーでは事務の担 当者が時間をやりくりし、期間限定で単純作業を手伝っています。例えば、漉きばめや補修が終わった後、乾燥させた文書を1枚ずつ不織布（保護カバー）から はがしたり、漉きばめ用の紙の繊維を調合するなどです。普段とは違う仕事にそれぞれ緊張していますが、「少しでも作業に関われてよかった」「200年も昔 の人が書いたものが津波に耐えて残っているなんて感動！」と、がんばっています。

いいね！ · コメントする · シェア 33 シェア1件

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年6月27日

大奥様からの贈り物

先日、吉田家の大奥様から小包が届きました。温かいお手紙と陸前高田のお菓子とともに、大奥様手作りの小物が入っていました。
色とりどりの糸で縫われた布巾はとても心がこもっていて、使うのはもったいないと思ったのですが、使わないのももったいない。文書の修復では、洗浄から始まり、のばし、漉きばめと、ほとんどの作業で水を使うので、布巾は必需品なのです。
漉きばめのとき、一枚漉くのに使う繊維をバケツからあらかじめ小さいカップに汲んでおくのですが、カップの周りが水浸しにならないよう、その下敷きに使うことにしました。
一枚一枚、レインボーカラーの布巾を見ながら漉きばめをしています。

いいね！ · コメントする · シェア 29 シェア1件

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年5月29日

お役立ちアイテム

今週は「漉きばめウイーク」として、重点的に漉きばめ作業をしています。
最近導入されたアイテムをご紹介いたします。
漉きばめ作業では、文書の欠損部分を埋めるため、紙の繊維を流し込みます。繊維と水を混ぜたものを大きなポリバケツに何個もあらかじめ調合しておくので すが、時間が経つと、繊維が沈んでしまいます。バケツの上の方は繊維の量が少なく、底の方は濃くなってしまうのです。均一にするために、これまでは木の棒 でかき混ぜていましたが、なかなかの重労働でした。
そこで登場したのがお風呂のお湯を混ぜるもの、通称「湯かき棒」です。これがあると、底に溜まった繊維を楽に混ぜられます。お店で見つけるのも一苦労でした（後に100円ショップでも発見しましたが）。平成生まれの同僚は存在すら知らず、世代間ギャップを感じました。

いいね！ · コメントする · シェア 25

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年4月25日

二人一組（写真3枚）
2月と3月限定で来てくださっていた助っ人が去り、作業を開始したころの体制に戻りました。若者に体力仕事を託していたときのどんどん進む感じには及びま せんが、自分たちなりの小さな工夫をいろいろ考え、老体（？）にむち打って、作業を始めたばかりの頃よりも効率は各段に上がっています。■今日の午後は漉 きばめです。漉く人とのばす人の二人一組で作業しています。「のばす」というのは、漉きばめ機で穴を埋めるための準備として、洗浄が終わって濡れた状態の 紙を、しわや汚れを取りながらピンとのばしていく作 業です。■不織布の上に紙を載せて刷毛でのばしながら、小さな折れや穴があいている部分など細かいところをピンセットで広げます。吉田家文書は100年以 上にわたって記録されたもので、時代によって紙の厚さや状態がかなり違っています。薄い紙や穴がたくさんあいている部分をのばすのは気を遣う作業で、時間 がかかります。■遅ればせながら、『国立国会図書館月報』2013年3月号 25〜30ページで、吉田家文書修復作業についてご紹介しました。どうぞご覧くださ い。http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8094028_po_geppo1303.pdf?contentNo=1 （PDF 9.1MB）

いいね！ · コメントする · シェア 35 シェア1件

2013年 ハイライト

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年4月9日

いいね！ · コメントする · シェア 4

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年4月9日

大奥様来館

先日、大奥様こと吉田家の第14代御当主夫人が作業の見学にいらしてくださいました。
御歳80歳、東京の滞在は3時間ほどという強行スケジュールにもかかわらず、終始笑顔で作業をご覧くださいました。
文書だけでなくお屋敷の手入れも大変で、屋根を葺（ふ）くための萱（かや）を入手するのに苦労したこと、吉田家は現在でも結束が固く、大きな行事では役 割分担が決まっていて、いざというときにはてきぱきと采配がなされるなど、吉田家と文書についてのいろいろなお話を伺っているうちに、あっという間に時間 が過ぎていきました。
作業が終わった文書をお見せしたところ、大奥様は「きれいにしていただいて、みんなに見せたい」「田舎の文書をこんなによみがえらせてくださって」と喜んでくださいました。
お話を伺い、たいへん励みになりました。これからもますます頑張るぞと皆で決意を新たにいたしました。

いいね！ · コメントする · シェア 9

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年3月6日

道のりは長いですが

処置が終わった文書は、綴じない状態のまま書庫で保管します。綴じは最後にまとめて作業することにしています。
最近は作業が順調に進んだので、書庫に行く文書がたまってきました。作業中はやってもやっても終わりが見えず、また先の道のりもとても長いのですが、で きあがった資料を見るとゴールはあるのだと実感できます。写真は書庫に行くのを待っている文書で、年代が書かれている地（冊子の下の部分）から見たところ です。

いいね！ · コメントする · シェア 35 1 シェア1件

大友 健右さん、Shigeki Higashimotoさん、土屋 慶浩さん、他32人が「いいね！」と言っています。

小玉 武司 スゴイ厚みですネ！何の文書だろう？
2013年4月20日 19:02

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年2月27日

JUST DO IT.

2月から2か月限定で若い助っ人が来てくださっています。流れ作業で進められる文書（状態のひどくないもの）を残しておいたこと、また、昨年10月の作 業開始から5か月経ち、私たちが慣れてきたこともあって、ものすごいスピードで作業が進むようになりました。3月中旬に岩手から第二弾の文書が到着するこ とも決まったので、いまはただ突き進むのみです。

いいね！ · コメントする · シェア 37 シェア2件

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年2月20日

表紙の役割

表紙は本文紙を守る役割をしています。吉田家文書の表紙も、これまでずっと本文紙を守りながら歴史を重ねてきました。
この度の大震災でも立派に中身を守り抜いた表紙には、本文紙よりも少し厚手の紙や、薄い紙を何枚か重ねたものが使われています。本文紙とは比較にならないほど汚れているので、何度も何度も洗います。紙に負担がかからないように、不織布袋に入れて洗っています。

いいね！ · コメントする · シェア 30

国立国会図書館吉田家文書修復
2013年1月31日

雪の岩手

先週、岩手県立博物館へ打合せに行ってまいりました。盛岡の最高気温は0℃、雪が降り積もっていました。作業中に出てきた疑問点の確認等を行い、岩手で 待機中の残り半分の文書の搬送についても話し合いました。残り半分はかなり状態のよくないもので、もうすぐ国立国会図書館へ搬送する予定です。寒さと緊張 で身が引き締まりました。
岩手県立博物館では3月17日まで「2011.3.11 平成の大津波被害と博物館」と題する展示会を開催中です。レスキュー活動の紹介パネルや救出した博物館資料が展示されています。吉田家文書も3点ありま す。この展示会は、5月15日から6月22日まで、昭和女子大学光葉博物館（東京都世田谷区）にも巡回してきます。

いいね！ · コメントする · シェア 29

開始日 ハイライト

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年12月26日

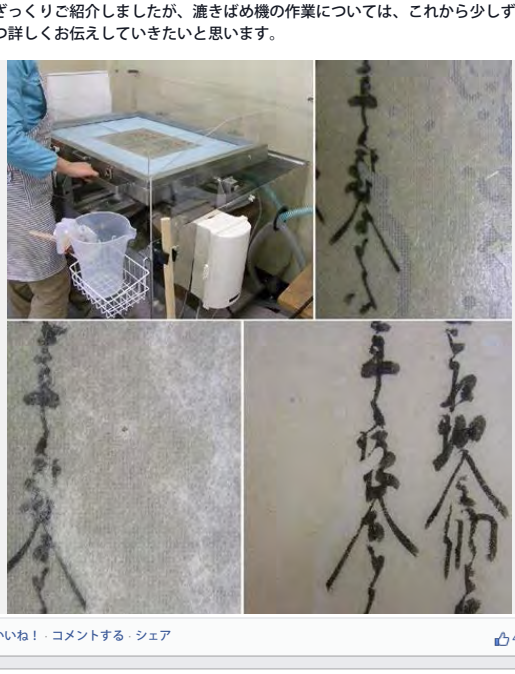
吉田家文書の年越し2012（写真4枚）
吉 田家文書の半分はこの冬、東京で年を越します。作業の進み具合によって、年越しはいろいろです。まだ作業に入っていないものは、来年の作業をキャビネットの中で待ちながら年を越します（写真左下）。クリスマスごろに漉きばめ機で穴埋めしたものは、ろ紙に挟まれ、重しを載せられて2013年を迎えます（写真上）。慶應3年の文書は、締め機に挟まれたままで年越しです（写真中央下）。作業が完了し、最後の糸綴じを待っているものは、不織布に包まれ、国立国会図書館の書庫に置かれます（写真右下）。10月に吉田家文書が到着して、あっという間に年の瀬となってしまいました。まめな更新がままなりませんでしたが、たくさんの方々に「いいね」をいただ き、とても励みになっております。来年もどうぞよろしくお願いいたします。 皆様、どうぞよいお年をお迎えくださいませ。

いいね！ · コメントする · シェア 21

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年12月5日

穴ぼこを埋める

あっという間に12月となりました。
11月は「安政6年」の綴りに明け暮れました。全部で500丁余り。そのすべてに多数の穴があり、漉きばめ機で穴を埋めました。
写真左上は、この度、新たに導入した漉きばめ機です。和紙を漉く動作に近い形で動かして、紙を漉いたり、紙にあいた穴を埋めるための機械です。修復した い紙を台に置き、紙の繊維と水を混ぜたものを流すと同時に台の下から吸い取ります。すると、穴の部分だけに繊維が入ります。写真右上は修復前（裏側）、左 下は繊維を流し込んだ直後（裏側）、これを乾燥させると、写真右下のように穴が埋まっています（表側）。
ざっくりご紹介しましたが、漉きばめ機の作業については、これから少しずつ詳しくお伝えしていきたいと思います。



いいね！ · コメントする · シェア 43

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年11月13日

吉田家文書とは

ノートに「吉田家文書とは」を追加しました。ごらんください。作業も順調に進んでいます。

いいね！ · コメントする 15

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年11月2日

足りない足りない！

10月中はまず数冊を作業してみて、効率よく修復作業を進められる工程を模索していました。以前お伝えしたように1丁ずつ広げ、洗って損傷部分を埋め、 乾かしていく作業を1冊ごとに行っていくので、最小限の資材でやりくりするにはどのくらいの量が必要か、何人でやると効率がよいか、などを考えていたので す。
定留は平均すると1冊に300丁（枚）くらいあります。最初に作業に取りかかった「安永4－6年」は3年間分なので、なんと470丁もありました。いざ作業を始めてみると、… もっと見る

いいね！ · コメントする · シェア 29 シェア1件

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年10月14日

主に洗っています。

到着した文書を広げてみると、改めて分量の多さに圧倒されましたが、効率よく進めるため、試行錯誤しながら作業を始めたところです。今回到着した分は比 較的状態がよいので、まず解体して洗い、損傷した部分があれば、紙の繊維を流し込んで埋めていきます。これらを流れ作業で行っています。
今日は洗いの作業をご紹介します。綴じ糸をはずして1丁（1枚）ずつ広げ、ザルにはさんで、最初はぬるま湯に浸して振り洗い、次に水に浸して振り洗いを します。写真手前がぬるま湯、奥が水に浸かっている文書です。洗う前の文書はなんともいえないニオイを放っていますが、洗うとかなり弱まりました。

いいね！ · コメントする · シェア 9 1

大友 健右さん、陸前高田市立博物館さん、荒木 優也さん、他6人が「いいね！」と言っています。

小関 尚子 主に洗っているのですね。懐かしい籠です。
2012年10月17日 7:40

国立国会図書館吉田家文書修復
2012年9月30日

到着しました！

台風の影響も心配されましたが、岩手県盛岡市から東京の永田町まで約550kmの長旅を終え、岩手県指定有形文化財「吉田家文書」が、無事に国立国会図書館東京本館に到着しました。
文書は2回に分けて搬送される予定で、その第一弾です（第二弾の搬送は来年春を予定）。本日午後に到着し、荷ほどきしたところです。これから修復作業に入ります。
このページでは、今後2年間の予定で、東日本大震災で被災した吉田家文書の修復作業をご紹介していきます。
吉田家文書の修復については、国立国会図書館のプレスリリースをご覧ください。
http://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2012/__icsFiles/afieldfile/2012/09/25/pr120926.pdf

いいね！ · コメントする · シェア 19 6 シェア4件

大友 健右さん、Terumi Nonakaさん、Shigeki Higashimotoさん、他16人が「いいね！」と言っています。

児玉 史子 良かったですね。これからの活動の紹介もよろしく。
2012年10月1日 0:17

奥田 和志 こういった文化財の修復作業は根気が必要なので、大変かと思いますが、是非蘇ることを願っています。正直なところ"租税事務執務記録"には興味はないのですが(^ ^;)、先祖代々資料を大切に保管されてきた吉田家に感服です。
2012年10月3日 20:21

小関 尚子 仲間内にシェアさせていただきます。頑張って！
2012年10月17日 7:41

後藤 実加 息子でもできることがあれば、又声をかけて下さい。
2012年10月18日 10:34 · 1

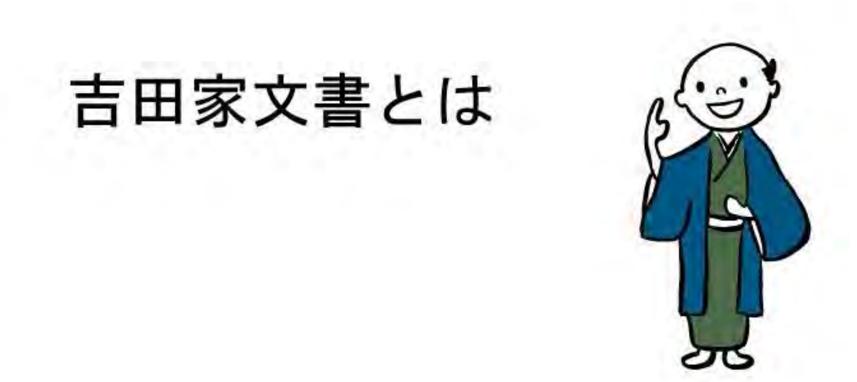
小川 清 自分がちょうど１００人目のいいねだったことを記念紹介。http://researchmap.jp/joz2ofnav-49935/
2013年1月20日 7:51

小川 清 http://researchmap.jp/joz2ofnav-49935/#_49935 にここの紹介を記録し、ここのURLをfacebook内４カ所に「シェア」させていただきました。
2013年1月20日 16:24

開始: 2012年10月1日

吉田家文書とは

2012年11月13日 23:10



「吉田家文書」は、仙台藩気仙郡で郡内を統括する役職「大肝入（おおきもいり）」を代々務めた吉田家に引き継がれてきた文書類です。気仙郡は24の村からなる区域で、現在の岩手県陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市唐丹に当たります。

大肝入（大肝煎）は、郡や村の住民から選ばれる地方（じかた）役人の最高位です。主な任務は郡内を統括し、租税の取りまとめを行うことで、諸経費の 配分、軽犯罪の取り調べなどを行う権限もありました。大肝入には役料が支給され、苗字帯刀、絹紬着用を許され、年貢や諸役を免除されました。

吉田家の初代宇右衛門（うえもん）（政義）は、元和6年（1620）に領主伊達政宗によって気仙郡大肝入に任命されました。以後吉田家は、一時期を除き［注1］明治2年（1869）まで十代にわたってその任務を務めました。

吉田家文書の中心は「定留（じょうどめ）」［注2］という執務日誌で、寛延3年（1750）から明治元年（1868）までの118年分がほぼ残されています［注3］。このような記録がまとまって残ることは全国でも稀であるといわれています。

「定留」には、前例をすぐ調べることができるように「頭書（かしらがき）」という索引がつくられています。上述のような任務の記録のほか、藩との連 絡調整、天明の飢饉をはじめとする災厄への対策など、地域の歴史と生活を知るための手がかりが蓄積された、貴重な資料です。現在、陸前高田古文書研究会が 吉田家文書の解読を進めておられます。

吉田家文書は平成元年に陸前高田市立図書館へ寄託され、平成7年に岩手県有形指定文化財に指定されました。このほか岩手県有形文化財に指定された古 文書には、豊臣秀吉朱印状（南部信直宛）、盛岡藩雑書があります。盛岡藩雑書が支配者側の記録であるのに対し、吉田家文書は庶民の近くで成立した資料とい えます。

注1 明暦2年（1656）から延宝3年（1675）は矢作久右衛門、元禄7年（1694）から宝永2年（1705）は松坂十兵衛が任命されている。
注2 「御用永留」、「永留」と題されたものもある。
注3 寛政11年（1799）、文化12年（1815）、文政元年（1818）、天保元年（1830）の4年分を欠く。

いいね！ · コメントする · シェア

小関 尚子さん、金野 聡子さん、建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム Digital Archives for Architectural Space consortiumさん、他2人が「いいね！」と言っています。

国立国会図書館吉田家文

国立国会図書館吉田家文書修復さんのノート
All Notes

RSS経由でノートを取得
埋め込み投稿

Facebook © 2014 · 日本語